

地域支援だより

平成24年8月31日

第25号

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

きらりNet

外部専門家の活用

「摂食・食事動作の理解と支援」

講師：秋田県立医療療育センター

作業療法士 羽澤 優子 氏

本校では、隣接する秋田県立医療療育センターからPT（理学療法士）・OT（作業療法士）・ST（言語聴覚士）が毎月来校し、専門的な立場から本校職員に対して具体的なアドバイスをいただいて、日々の指導に生かしています。夏期休業中に実施された職員研修会では、OT（の羽澤優子氏を講師にお迎えし、毎日の指導の中でとても大切な「食事の支援」について教えていただきました。そこで学んだ食事支援のポイントをご紹介します。

ポイント① ^{ごえん}誤嚥を防ぐためには

一人一人の「最適な姿勢」を見つけること！

ポイント② 食事動作に必要なのは

まずは「座位姿勢の安定」！

ポイント③ できるだけ自分で食べられるように
「道具の活用」で、その便利さを実感して！

演習「不安定な姿勢で水分を飲み込むと…」



頭部が反り返った状態で飲み込むと苦しいし、前も見えずとてもこわいです！

（受講者より）

水分をとった後、むせることがあります。コップの傾け方など教えて下さい。

（羽澤OTより）

普通のコップでは縁が鼻にぶつからないように頭を後方に倒す必要があるため、頸部が安定しない場合、むせたり誤嚥したりしやすくなってしまいます。専用の訓練用コップでなくても、安価なプラスチック製コップを一部U字型にカットして使えば、頭部の位置を変えずに水分を摂取することができますよ。（カットした部分は、やすりをかけて下さいね）



- 一人一人に必要な支援を考えましょう。
- 安全に食べること、自分で食べることは楽しく食べることにもつながります。
- 摂食・食事動作は毎日行う感覚—運動経験です。発達・学習の可能性をたくさん持っているのです！



Q&A

かがやきの丘 ボランティア講座 開催しました!!!

8月7日(火)、8日(水)の二日間、「かがやきの丘 ボランティア講座」を開催しました。三年目になる今年も盲学校、聾学校、本校が合同で開催し、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由についての講座を担当しました。それぞれの学校の特徴や児童生徒と関わる上での配慮点等についての講話や演習を行い、かがやきの丘について学ぶ機会をもってもらうことができました。

秋田きらり支援学校について

本校児童生徒の障害の状況や各学部の学習、給食における配慮、医療的ケア等について紹介しました。

教具や補助具について

児童生徒が実際に使用している教具や補助具についての説明を行いました。スイッチ教材を見たり、マウスを実際に触ってみたりすることで、学習場面や生活場面で必要な配慮や工夫点を知ってもらいました。

車椅子の操作について

歩行が困難な人にとって、移動が『難しい』を『できる』に代えてくれるものとして、使用している車椅子。『支援を行う際はコミュニケーションが大切!』ということを考えていただきながら、二人一組になり、車椅子を押ししたり、乗ったりして、介助する側の注意点とされる側の気持ちを体験してもらいました。

車椅子体験の様子を紹介します。



狭い場所を通る際は、ゆっくり押すことや壁に手や足がぶつからないように注意しながら介助します。



下り坂や段差では、前向きに降りると、身体が前傾になり、こわい思いをします。声をかけながら、後ろ向きで降りることで、不安感が和らぎます。



席に着くときは、テーブル下の凹凸やテーブルの脚をしっかりと確認します。膝やつま先をぶつけないように細心の注意を払います。

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。



教頭 五十嵐 昌司 地域支援部 遠藤 美和子

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575